

社会資本総合整備計画

快適でにぎわいのある空間の創出

(第1回変更)

平成30年1月19日

神奈川県 海老名市

社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成30年1月19日

計画の名称	快適でにぎわいのある空間の創出				重点配分対象の該当	○
計画の期間	平成29年度～平成33年度（5年間）		交付対象	海老名市		
計画の目標						

本市の中心市街地である海老名駅周辺地区は、鉄道3線が乗り入れ1日約270,000人の乗降客数を持つ県央地域のターミナル駅である海老名駅を中心に、既存市街地である東口地区と新市街地である西口地区及び駅間地区で構成されている。海老名駅周辺地区では市街地整備事業の進捗に合わせ、大型商業施設や都市型居住施設の立地による、新たな来街者と居住者の増加が見込まれており、今後さらに賑わいが増していく状況にある。コンパクトシティのまちづくりを進めるため、本地区の交通結節機能の拡充によりアクセスしやすく、さらにまちなか及びまち縁辺の各種施設の回遊性を高め、滞在できる多様な都市機能を持つ成熟した都市を目指す。

計画の成果目標（定量的指標）	海老名駅を中心とした東西一体のまちづくりの進捗及び相模鉄道海老名駅改修事業に合わせ、海老名駅の交通結節機能の強化と安心・安全・快適な歩行者ネットワークの構築を推進し、賑わいと活力、そして誰もが活動しやすい魅力的な都市を目指します。 ①海老名駅の交通結節機能の強化 ②地区内の自然・歴史・文化等の観光資源を有効活用し、中心市街地の新たな魅力の創出と歩行者回遊性の向上					
定量的指標の定義及び算定式						

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考								
	当初現況値 (H28当初)	中間目標値 (H31末)	最終目標値 (H33末)									
市が実施する「市政アンケート調査」を基に、対象地区の「最寄り駅までのアクセス」について、の満足度を測定する。（国分地域）	65%		81%									
市が実施する「市政アンケート調査」を基に、「中心市街地に必要なもの（案内・標識の整備）」について、の満足度を測定する。	74%		93%									
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」の来館者数を測定する。	9,334人/年		10,739人/年									
市が実施する「市政アンケート調査」を基に、「中心市街地に必要なもの（防災対策の充実）」について、の満足度を測定する。	56%		62%									
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	1,072.4百万円	A	1,072.4百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.0%

交付対象事業

A 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H29	H30	H31	H32	H33				
1-A-1	都市再生	一般	海老名市	直接	海老名市	海老名駅周辺地区都市再生整備計画事業	駅前交通広場、総合待合所、案内板・表示ほか（63.3ha）	海老名市						1,072.4			別添1
合計													1,072.4				

B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H29	H30	H31	H32	H33				
合計													0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
									H29	H30	H31	H32	H33			
合計													0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
									H29	H30	H31	H32	H33			
合計													0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考

交付金の執行状況

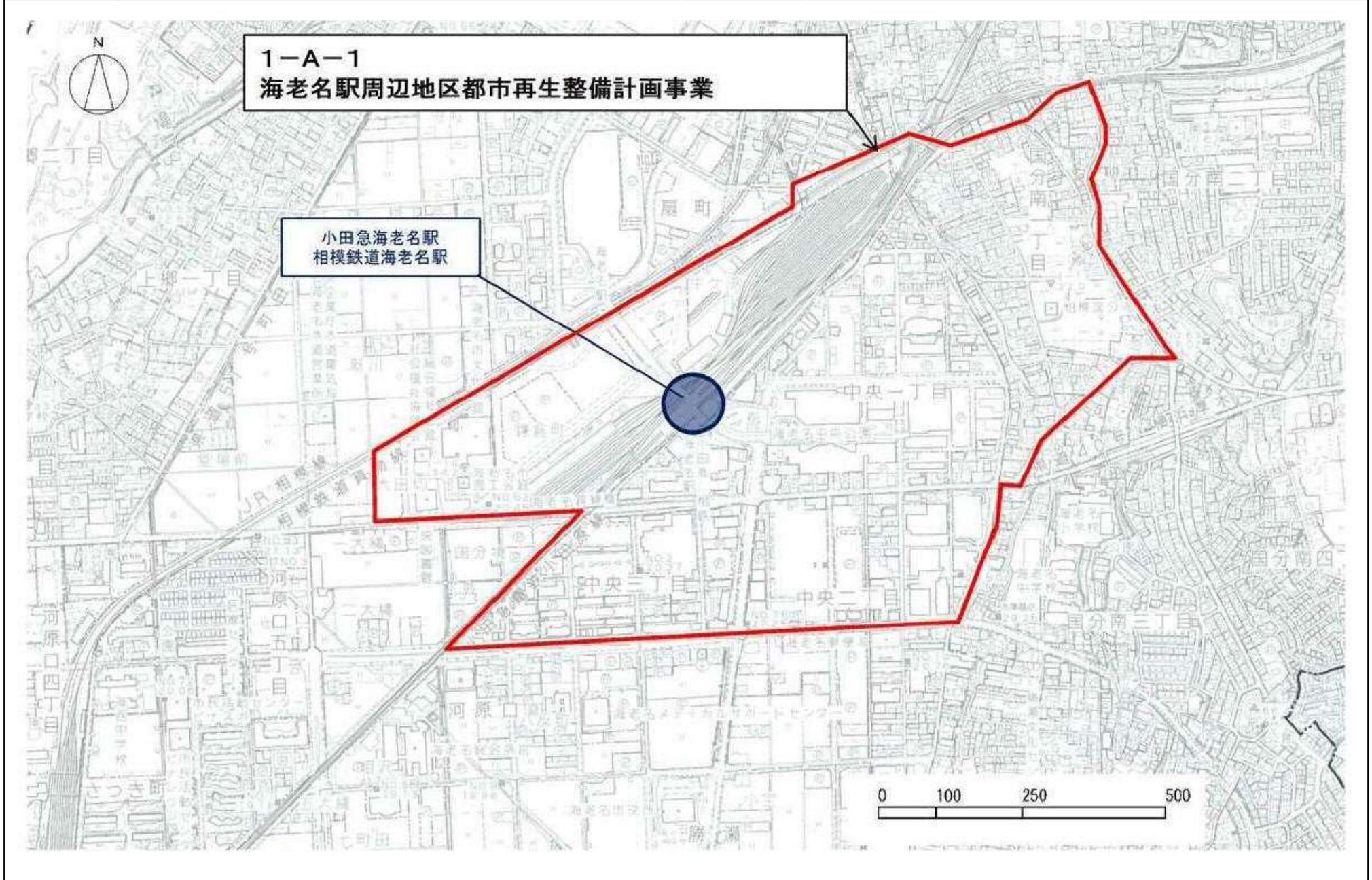
(単位:百万円)

	H29	H30	R元	R2	R3
配分額 (a)	197.6	152.9	0	0	
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	0	
交付額 (c=a+b)	197.6	152.9	0	0	
前年度からの繰越額 (d)	0	197.6	152.9	139.6	
支払済額 (e)	0	197.6	13.3	139.6	
翌年度繰越額 (f)	197.6	152.9	139.6	0	
うち未契約繰越額 (g)	128.6	0	0	0	
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	65.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	用地買収において地権者調整に不測の日時を要したため				

※ 平成28年度以降の各年度の決算額を記載。

参考図面（社会資本整備総合交付金 市街地整備）

計画の名称	快適でにぎわいのある空間の創出	交付対象	海老名市
計画の期間	平成29年度 ～ 平成33年度（5年間）		



都市再生整備計画

海老名駅周辺地区
(第1回変更)

神奈川県 海老名市

平成30年1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	海老名市	地区名	海老名駅周辺地区	面積	63.3 ha
計画期間	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度	交付期間	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度				

目標

海老名駅を中心とした東西一体のまちづくりの進捗及び相模鉄道海老名駅改修事業に合わせ、海老名駅の交通結節機能の強化と安心・安全・快適な歩行者ネットワークの構築を推進し、賑わいと活力、そして誰もが活動しやすい魅力的な都市を目指します。

- ①海老名駅の交通結節機能の強化
- ②地区内の自然・歴史・文化等の観光資源を有効活用し、中心市街地の新たな魅力の創出と歩行者回遊性の向上

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

海老名駅周辺地区は海老名市都市マスタープランにおいて、「都市交流拠点」と位置付けられており、商業や業務、行政サービス、生涯学習・文化、医療・福祉等の様々な機能が集積し、多くの人が集まり交流する地区とし、海老名駅が本市の玄関口及び中心市街地として、ショッピングやレクリエーション機能、業務機能を備えた、賑わいのある商業業務空間を舞台に「人・物・文化」が交流する、都市機能の中心核としての役割を担うこととしている。また、国の人口は少子高齢化により平成17年をピークに減少しているものの、海老名市の人口は昭和46年の市制施行から着実に増加をたどり、現在も微増を維持し、平成37年の目標人口を137,000人に設定している。

昭和48年に小田急線海老名駅が現在の位置に移転したことに端を発し、以降、民間開発事業者を中心に市街地整備が進み、その進捗に合わせ行政側による都市基盤施設の整備を進め、現在の中心市街地の骨格が形成されている。平成14年には海老名駅東口に大型ショッピングモールの「ピナウオーク」が開業し、平成27年秋に海老名駅西口地区のまち開きと駅東西を結ぶ自由通路が完成し、現在は海老名駅駅間地区のまちづくりが進んでおり、まちの拡大と変革が行われてきた。さらには、平成32年度に相模鉄道海老名駅の駅舎改良が予定されており、新たに設置する北口の開設を控え、周辺地区の土地利用の促進も検討している。

海老名駅は小田急電鉄、相模鉄道、JR相模線の3線が乗り入れる県央地区の交通の要衝であることの高い利便性及び近隣の綾瀬市や愛川町に鉄道駅が無いことから、鉄道からバス・タクシー・自家用車などの乗り換え拠点としての機能も受け持つており、交通結節点としての機能性と市街地開発による新たな魅力づくりに裏付けられ、市民はもとより、さらに広範囲な近隣市町からも来街し、まちの賑わいがさらに増してきている状況にある。また、道路環境においては、平成22年度の圏央道海老名IC供用開始、平成27年度に圏央道神奈川県内全線開通となり、高速道路アクセスが大幅に向上したことから、海老名駅周辺地区への高速バス路線乗り入れや観光ツアーの発着点としてニーズが高まっている。その他、当地区の魅力の一つとして、駅からの徒歩圏に国指定史跡「相模国分寺跡」や関連する歴史資産がある。史跡整備の進捗に伴い、見学の問い合わせが増加傾向にあり、相模国分寺跡を中心とした歴史資産の一層の活用が求められている。

このように、海老名駅周辺地区は市の人口増や来街者の増加に対する、受け皿となる都市施設・機能のさらなる強化が必要となっている。

課題

- ・海老名駅は鉄道3線が乗り入れるものの、鉄道軌道により“まち”が分断されていることから、各駅口（東口、西口、北口）の機能分担が必要とされている。
- ・駅利用者のキスアンドライドによる駅前交通広場の混雑が発生し、公共交通機関の運行に支障を来している。
- ・自然・歴史・文化等の観光施設の活用が不足している。
- ・駅への車両集中による道路混雑や歩行者との交錯による交通障害と安全な歩行空間が確保できていない。
- ・駅周辺施設におけるバリアフリー化、防災機能の充実が必要とされている。

将来ビジョン（中長期）

海老名市では、都市マスタープランにより、まちづくりの目標を以下のとおり定めております。

- 【基本目標1】まちの賑わいや元気を実感できる都市
- 【基本目標2】安全で安心感のある都市
- 【基本目標3】誰もが暮らしやすさを実感できる都市
- 【基本目標4】自然や歴史の魅力があふれる都市

目標を定量化する指標

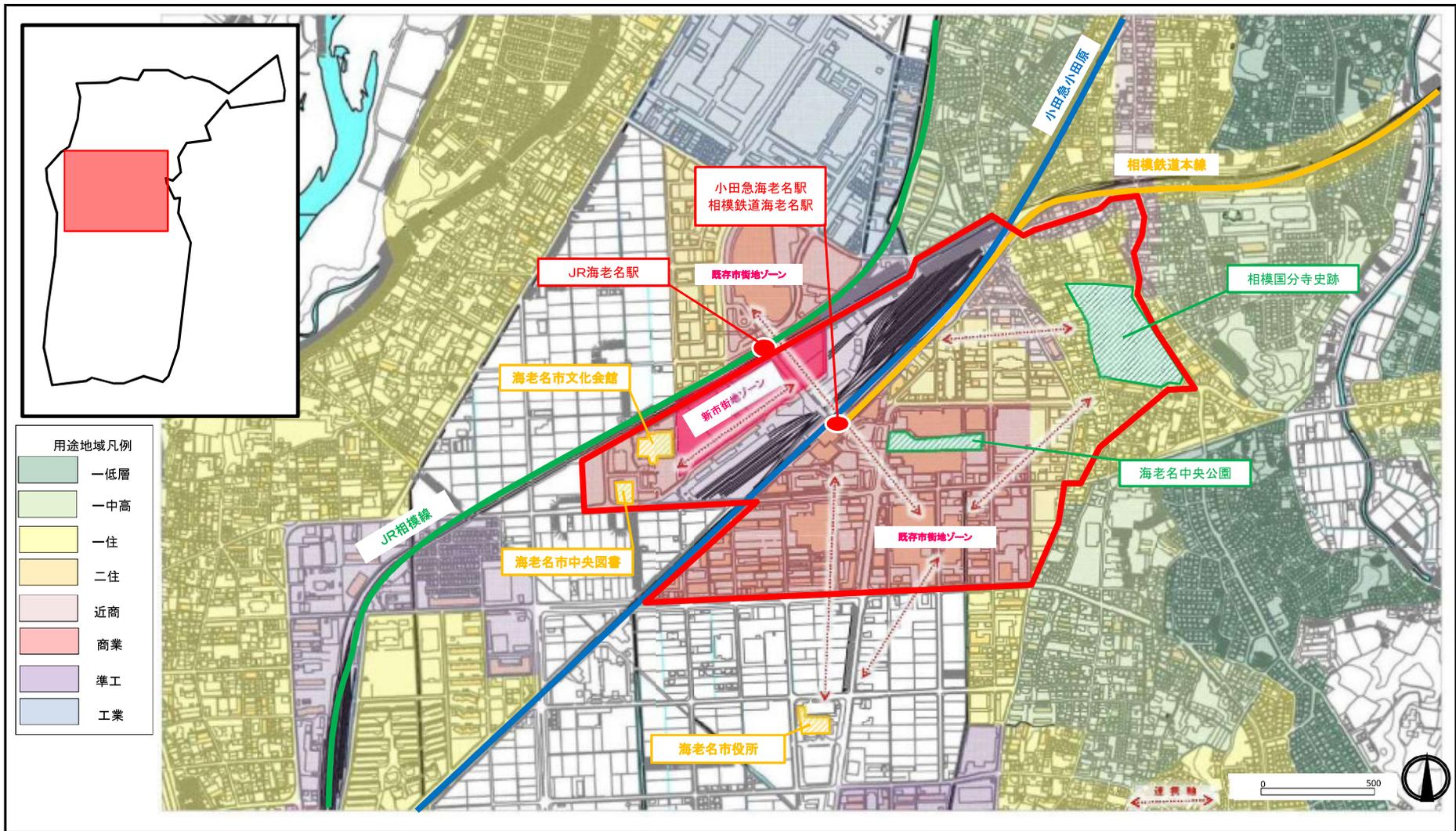
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
市民生活の便利さ・満足度	%	市民(国分地区)の最寄り駅へのアクセス	海老名駅までの移動距離の短縮による歩行者の快適性の向上	65	H28	81	H33
地区内案内設備に係る市民満足度	%	海老名駅周辺地区における案内・標識の整備	誘導施設の整備による回遊性の向上	74	H28	93	H33
自然・歴史施設の有効活用	人/年	温故館の利用者	案内・誘導施設の整備により、歴史・自然施設が有効活用される	9,334	H28	10,739	H33
防災対策に係る市民満足度	%	海老名駅周辺地区における防災対策の充実	災害対策機能を備えたエレベーター整備による満足度向上	56	H28	62	H33

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> 海老名駅の交通結節機能の強化 	<p>【基幹事業】</p> <p>道路：海老名駅北口駅前交通広場整備事業(車道部)</p> <p>地域生活基盤施設(広場)：海老名駅北口駅前交通広場整備事業(広場部)</p> <p>(情報板)：観光案内盤等整備事業</p> <p>高質空間形成施設：海老名駅駅間エレベーター整備事業</p> <p>海老名駅駅間車寄せ整備事業</p> <p>高次都市施設(観光交流センター)：海老名駅観光案内所整備事業</p> <p>【関連事業】</p> <p>相模鉄道海老名駅舎改良事業</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地区内の自然・歴史・文化等の観光資源を有効活用し、中心市街地の新たな魅力の創出と歩行者回遊性の向上 	<p>【基幹事業】</p> <p>地域生活基盤施設(広場)：海老名駅北口駅前交通広場整備事業(広場部)</p> <p>(情報板)：観光案内盤等整備事業</p> <p>(情報板)：文化財案内板等整備事業</p> <p>(情報板)：公共施設案内板等整備事業</p> <p>高質空間形成施設：海老名駅駅間エレベーター整備事業</p> <p>海老名駅駅間車寄せ整備事業</p> <p>高次都市施設(観光交流センター)：海老名駅観光案内所整備事業</p> <p>【関連事業】</p> <p>相模鉄道海老名駅舎改良事業</p>
<p>その他</p>	

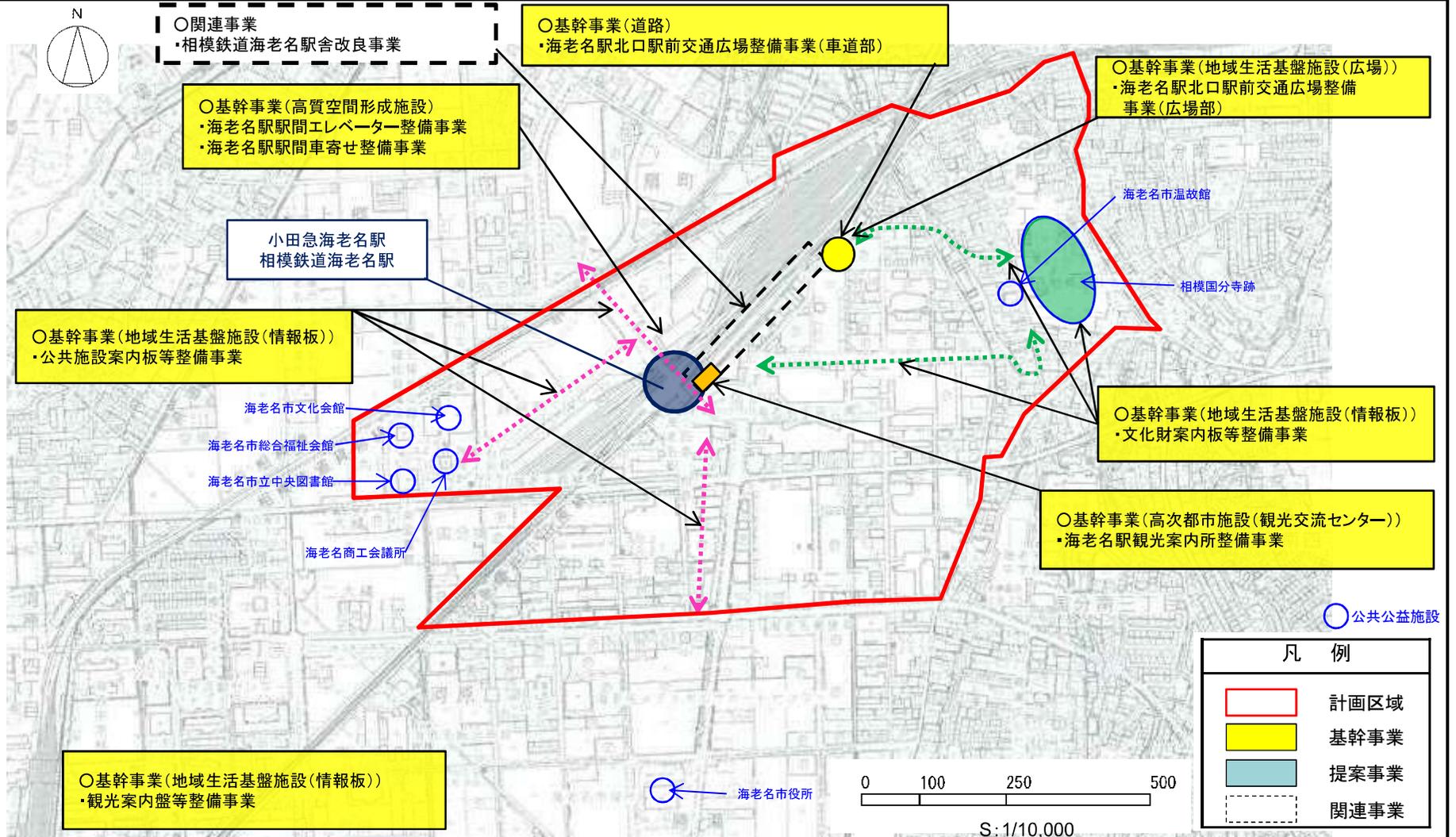
都市再生整備計画の区域

<p>海老名駅周辺地区（神奈川県海老名市）</p>	<p>面積 63.3 ha</p>	<p>区域 海老名市中央1～3丁目、国分南一丁目の一部、国分南二丁目の一部、国分南三丁目の一部、国分北一丁目の一部、国分北二丁目の一部、上郷の一部、扇町の一部</p>
---------------------------	-------------------	---



海老名駅周辺地区（神奈川県 海老名市）整備方針概要図

目標	海老名駅の交通結節機能の強化と安心・安全・快適な歩行者ネットワークの構築を推進し、集約型都市構造に向けた賑わいと活力、そして誰もが活動しやすい魅力的な都市づくり	代表的な指標	市民生活の便利さ・満足度（％）	65	（平成28年度）	→	81	（平成33年度）
			地区内案内設備に係る市民満足度（％）	74	（平成28年度）	→	93	（平成33年度）
			歴史・自然施設の有効活用（人／年）	9334	（平成28年度）	→	10739	（平成33年度）
			防災対策に係る市民満足度（％）	56	（平成28年度）	→	62	（平成33年度）



社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 海老名駅周辺地区都市再生整備計画

事業主体名: 海老名市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	—
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○